

## Special issue: art documentation in Japan, in *Art Libraries Journal*, ARLIS/UK & Ireland, Vol.38, No.2, 2013 の刊行について

水谷 長志・山村 真紀・北岡タマ子

本号の『通信』とともに同封された英国・アイルランド美術図書館協会 (ARLIS/UK & Ireland) の機関誌である *Art Libraries Journal* の一冊が会員のみな様のお手元に届いていることと思います。

*Art Libraries Journal* のこの号は、特集「日本のアート・ドキュメンテーション」と題され、後掲の通り、初代 JADS 会長の波多野宏之氏の「Viewpoint: 視点」を含む 9 本の論考によって日本のアトライブラリとアート・ドキュメンテーションおよびデジタルアーカイブの動向を広く紹介するものとなっています。

ご存知の通り、ARLIS/UK & Ireland は現在、欧州北米他各国に組織されている美術図書館協会 ARLIS: Art Libraries Society の先駆けとして 1969 年に発足し\*、その機関誌である *Art Libraries Journal* (創刊 1976) は北米 ARLIS/NA の *Art Documentation* (創刊 1982) と並び、世界の美術図書館およびアート・ドキュメンテーションを国際図書館連盟美術図書館分科会との緊密な連携のもとにリードしてきたコア・ジャーナルとして号を重ねて来ました。

日本からも、JADS の誕生はもとより 1986 年の IFLA 東京大会にも先駆けて、1980 年の IFLA マニラ大会美術図書館ラウンドテーブルでの大久保逸雄氏 (当時、武蔵野美術大学美術資料図書館) による発表ペーパーが、”Problems in art documentation in Japan” として *Art Libraries Journal*, 1980, Vol. 5, No. 4, p. 25-33. に掲載されました。これを嚆矢として、以後、複数名の記事が同誌に掲載されています。

今回の日本特集は、2011 年の 1 月にまず Lorraine Blackman さん (Business Manager, ARLIS UK & Ireland, Victoria and Albert Museum) から前の国際交流委員長の村田氏に打診されましたが、あの震災の余波があり、すぐには着手できませんでした。村田氏から国際交流委員長のバトンを受けた山村が、同年の夏にこの件を引き継ぐ旨を Blackman さんに返信し、秋には北岡が国際交流委員に加

わるとともに、水谷が特集記事の構成と執筆者の目次案を立てて行きました。

冒頭、JADS の略史および日本における美術図書館自体の連携、そして MLA の連携を中心に水谷が本特集の主旨をイントロダクションし、

以下、

- ・日本のデジタルアーカイブ (研谷)
- ・武蔵野美術大学美術館・図書館 (本庄)
- ・東京都江戸東京博物館図書室 (楯石)
- ・東京文化財研究所図書室 (中村)
- ・文化遺産オンライン (丸川)
- ・国立国会図書館 PORTA/Search (大場)
- ・saveMLAK (山村)

という特集の構成をプランして、各執筆者への打診を行いました。

幸いにもこれら論考の構成のもと、いずれの執筆者からも内諾をいただいて、比較的順調に進んだのですが、懸案はやはり、翻訳等経費の問題でした。

2011 年の秋から、まずは日本側編集担当が和文の執筆要項を固めるとともに、助成金の情報収集に努めました。最終的には会員である慶應義塾大学名誉教授・中部大学教授の前田富士男先生より推薦状をいただき、公益財団法人文化財保護・芸術研究助成財団 (宮田亮平理事長) から助成を得るとともに、株式会社マイブックサービスからも御芳志を頂戴したことにより、翻訳のみならず、JADS 全会員分の増刷と英国からの輸送および国内送付の経費までを充填することができました。

ご推薦いただいた前田先生はじめ、文化財保護・芸術研究助成財団、そしてマイブックサービスに、『通信』誌面を借りましてあらためてお礼申し上げます。

2012 年の 7 月には邦語原稿が整えられ、以後は *Art Libraries Journal* のエディタである Gillian Varley\*\* 女史と同地の翻訳者、日本側編集担当者および原著者との間で細部の確認から画像の受け渡し等々を綿密に連携しつつ、おおよそ昨年 11 月末にはほぼ校了直前のところまで辿り着きました。

以後、3 月初旬に印刷が完了し、会員分の増刷誌がロンドンから空を越えて、ようやく会員のみな様にお届けできた次第です。

*Art Libraries Journal* においては過去、幾度か欧米を中心に国別・地域別の特集が組まれましたが、アジアにおいてはこの日本特集が最初になります。これを契機に JADS と ARLIS/UK & Ireland との間のみならず、広く世界のアトライブラリとアート・ドキュメンテーションの連帯にこの特集がいささかの寄与のあることを願って止ま

せん。

Special issue: art documentation in Japan

CONTENTS:

Gillian Varley. Editorial...3

1) Hiroyuki Hatano. Viewpoint: Saving Japanese cultural assets and information

波多野宏之(駿河台大学)「視点—日本の文化財とその情報を救う」...4

2) Takeshi Mizutani. Art libraries and art documentation in Japan, 1986-2012: progress in networking museums, libraries and archives and the Art Libraries Consortium

水谷長志(東京国立近代美術館)「日本のアートライブラリとアート・ドキュメンテーション 1986-2012: MLA 連携と美術図書館連絡会 ALC を中心に」...6

3) Norio Togiya. Trends in digital cultural heritage in Japan, 1980-2012

研谷紀夫(関西大学)「日本における Digital Cultural Heritage の動向」...11

4) Michiyo Honjo. How to connect: joining up the archives at Musashino Art University Museum & Library

本庄美千代(武蔵野美術大学)「デジタル・アーカイブズの活用と共有化: 美術系大学図書館の事例」...17

5) Momoko Tateishi. The Edo-Tokyo Museum Library

楯石もも子(東京都江戸東京博物館)「東京都江戸東京博物館図書室 都市史博物館図書室の活動」...21

6) Setsuko Nakamura. The Art Library of the National Research Institute for Cultural Properties, Tokyo

中村節子(元東京文化財研究所)「東京文化財研究所の図書室」...26

7) Yuzo Marukawa. Cultural Heritage Online: discovering the possibilities of a digital archive

丸川雄三(国際日本文化研究センター)「デジタル・アーカイブと文化遺産オンライン」...31

8) Toshiyasu Oba. PORTA and NDL Search: digital archive portals at the National Diet Library

大場利康(国立国会図書館)「[国立国会図書館から] デジタル・アーカイブ-PORTA/Search」...36

9) Maki Yamamura. The saveMLAK Project: the Great East Japan Earthquake and new developments in museum library-archive collaboration

山村真紀(ミュージアム・サービス研究所)「震災と MLA 連携—saveMLAK プロジェクト—」...40

\* その歴史については、水谷「英国美術図書館協会 ARLIS/UK & Eire の 40 周年記念誌 ARLIS at 40: a celebration の刊行について」『アート・ドキュメンテーション通信』87, 2010.10, p.10-11. を参照されたい。

\*\* Gillian Varley は 5 代目のエディタを 1998 年以来 15 年間つとめ、本号をもって退任されるとのことです。

(みずたに たけし 東京国立近代美術館)  
(やまむら まき ミュージアム・サービス研究所)  
(きたおか たまこ お茶の水女子大学)

以上、Special issue: art documentation in Japan in *Art Libraries Journal* 日本側担当

